



図35 スイグ型脳ポテンシャル

a. 被験者M6の電極 0_1 のV軸ヒストグラム（上段）とdV/dt軸ヒストグラム（下段）。V軸ヒストグラムでは顕著な凹みは認められず、dV/dt軸ヒストグラムでのみ顕著な凹みが認められた。b. aに示されたヒストグラムの上下を倒置して、それらが直交する座標の断面図となるような3次元の構造を考えると、馬の背に乘せる鞍を逆さにした構造になる。その中をボールはあるときは一方のくぼみに落ち込んだり、またあるときはもう一方のくぼみに落ちこんだりと揺らいだ動きをする。このボールの動きからこの脳ポテンシャルをスイグ型脳ポテンシャルと名付けることにした。